

## 令和5年度 本宮市介護保険運営協議会兼本宮市地域包括支援センター運営協議会

I. 開催日時 令和5年11月29日(水) 15:30~16:35

II. 開催場所 えぼか 2階 中会議室

### III. 出席者

委員：吉田委員、加藤委員、辻本委員、鈴木委員、小田委員、遠藤委員、大塚委員、  
武田委員、堀内委員、川名委員 計10名

事務局：佐藤保健福祉部長、板垣高齢福祉課長、森川包括支援係長、川名介護保険係長、  
高橋長寿福祉係長

桑原本宮第1地域包括支援センター長、遠藤本宮第2地域包括支援センター長、  
佐藤白沢地域包括支援センター長

### IV. 進行

1. 開 会

2. 挨拶

3. 報 告

(1) 高齢者福祉及び介護保険に関するアンケート調査の結果について

4. 議 事

(1) 第10次高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画(素案)について

5. その他

6. 閉 会

### V. 会議経過

1. 開 会 【出席委員過半数により協議会の成立を確認】

2. 挨拶 【吉田会長】

《ここより、会長が運営協議会の議長となり進行》

3. 報 告

(1) 高齢者福祉及び介護保険に関するアンケート調査の結果について

◆資料により説明

◆質 疑

な し

4. 議 事

(1) 第10次高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画(素案)について

◆資料により説明

◆質 疑

【委 員】

P36の基本目標Ⅱ(1)災害時等の支援体制の構築 ②災害時における高齢者避難等の  
備えに「避難行動要支援者台帳の整備」とあるが、台帳の整備進捗状況について伺い  
たい。

【事務局】

避難行動要支援者台帳整備については、要支援者の同意をいただきながら進めてい  
るところだが、ここ数年はコロナの影響もあり、思うように整備が進まない状況があ  
った。今後、台帳システムの更新もあるため、それに併せ、改めて地域の皆様のご協  
力をいただきながら整備を進めていく。

【委員】

P33 のファイブコグ検査は、令和 3 年度、令和 4 年度の実績は 1 件、令和 5 年度の見込と令和 6 年度以降の目標は 2 件ずつとなっているが、目標数値が上がらない理由は何か。まだ試行段階だからこの程度の数になっているのか。今後、回数が増える計画はあるのか。

【事務局】

令和 3 年度、令和 4 年度は年間計画で 1 回と決め開催した。1 回あたりの人数が 50 人となっているが、3 年度も 4 年度も 50 人を超える希望者があったため、令和 5 年度は 1 回目 50 人、2 回目 40 人とトータルでは 90 人近くの人に検査を実施した。回数は少ないが、参加人数は倍近くとなっている。この検査は、ある程度期間を置いて開催する必要があるため、計画としては今後も年 2 回の開催を予定している。

【委員】

高齢化社会において認知機能検査は大事なところと考え、一般市民の関心は高いと思う。100 人、200 人と希望者が増えると思われる。それらを踏まえ、今後の対応をお願いしたい。

【委員】

P34 基本目標 I (2) 社会参加と生きがいづくりの推進 ①高齢者の多様な活動・交流の支援の中で、老人クラブの「継続的な活動ができる体制づくりの支援を行う」とある。今後、定期的に定例会等の体制づくりに高齢福祉課でも協力いただけるとありがたい。ボランティア関係も傾聴ボランティア等も行っているので、こちらの体制づくりもご指導いただきたい。

【委員】

P61 の介護給付費の見込みが令和 4 年度に比べて令和 5 年度、特に施設サービスの給付費が下がっているが、何か要因があるのか。

【事務局】

令和 5 年度の給付費が下がっている要因として、令和 4 年度より要介護認定者数が少ないこともあるが、大きくは令和 4 年度後半にコロナ関係で施設サービス給付費が下がった影響を引きずっていることが要因と考える。今回記載の見込みは、令和 5 年度の 6、7 月頃までの給付実績を元に推計しているため、今後 9 月、10 月と取り込める実績を含め、給付費も認定者数も最終的な見込みを推計していきたい。

【委員】

P56～P57 で高齢化率と要介護認定率のグラフを見比べた場合、高齢化率は令和 3 年度以降徐々に上がっていくが、認定率は令和 6 年度～令和 8 年度まで横ばいとなりその後上がっている。高齢化率と認定率に差があることについて、考えられる理由は何か。

【事務局】

今後、高齢者数は増えていくが、65 歳になったばかりの若い高齢者が増えていく状況であり、令和 6 年度～令和 8 年度の間には要介護認定を受ける割合が高くなる 85 歳以上の高齢者が増える状況ではないため、認定者数は横ばいになっている。そのためこの期間は、高齢化率と認定率が正比例で増えていくという推計にはなっていない。

## 【高齢化率と認定率について】

### ◆高齢化率

P56 の将来人口と高齢化率の推移グラフでは、総人口が年々減少している一方で 65 歳以上の人口は増加しており、高齢者の割合が増えるため、高齢化率は年々高くなっています。

### ◆認定率

P14 の年齢別人口に対する要介護認定者の出現率を見ると、65 歳～79 歳までは要介護認定者の出現率が低く、80 歳以降、特に 85 歳以降は要介護認定者の出現率が高くなっています。

P56 の高齢者人口を見ると、令和 5 年度までは後期高齢者より前期高齢者のほうが多く、令和 6 年度～令和 8 年度は後期高齢者が前期高齢者より若干多くなるものの要介護認定の出現率が低い年齢層が多いことから、認定率への影響が小さいため、横ばいのまま推移すると考えます。

5. その他  
なし

6. 閉会